

1. 75歳以上の2割負担（435人）の受診状況

（1）「配慮措置」でも経済的理由による受診控え16.8%

○「過去半年以内に経済的理由で受診を控えたことがある」との回答が75歳以上で窓口負担が2割の人で16.8%（73人）。

○75歳以上で窓口負担が1割の人は、受診控えは12.7%（105人）。

→政府は昨年10月に75歳以上の医療費窓口負担2割化を実施するにあたり、「（3年間）の配慮措置を講じており必要な受診は妨げられない」と国会答弁していた。しかし、調査では、窓口2割化の影響ですでに受診抑制が生じていることが分かった。一方、75歳以上で単身の年収が200万円以下の人には窓口負担1割が維持されたものの、相次ぐ年金引き下げ、物価高騰、医療・介護の費用負担等の影響で1割弱の人が受診を抑制している。「経済的理由で受診を控えたことがある」と回答した割合は、窓口負担が2割となった人が、1割負担の人より4ポイント多かった。

図2 経済的理由による受診控え
（75歳以上の2割負担・年収200万円以上）

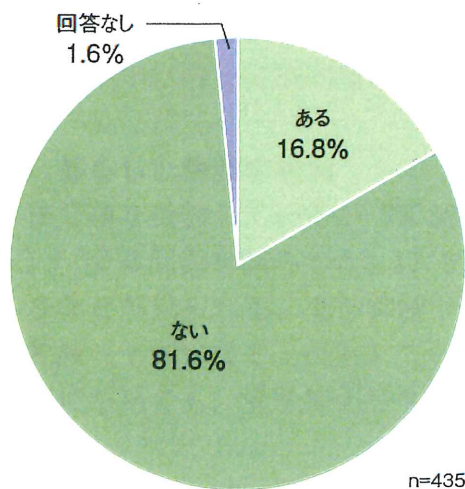
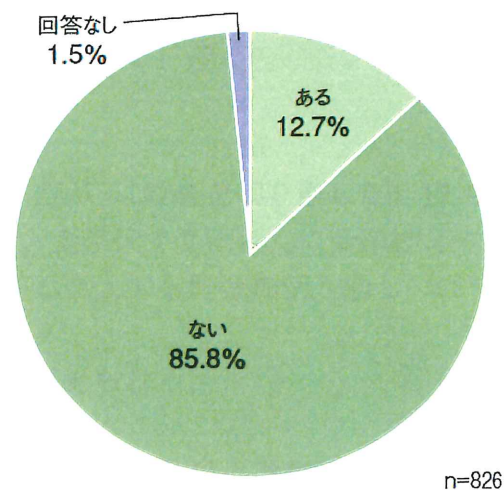


図3 経済的理由による受診控え
（75歳以上の1割負担・年収200万円未満）



（2）暮らしと受診の状況

○75歳以上で窓口負担が2割になった人（435人）に受診状況・暮らしの様子を聞いた。80.2%（349人）が「今まで通り受診している」と回答する一方で、「受診回数を減らした」14.9%（65人）、「食費など生活費を削って受診」12.0%（52人）、検査・薬などを減らした9%（39人）と回答しており（図4）、受診の手控えや受診のために生活費を削っている状況が分かる。また、約3割が「貯金などを切り崩した29.4%（128人）」と回答している。これは年金削減と物価・光熱費の高騰や医療・介護の保険料引き上げ、窓口負担増等の影響が考えられる。

→高齢者の多くは定期的に受診せざるを得ない病気を抱えており、受診回数や薬を減らしていたり、貯金や生活費を削って受診している。

→経過措置終了後には、より一層受診控えが広がることも懸念される。